

保健活動リレーエッセイ

“まちの健康支えます！”

甲佐町総合保健福祉センター 保健師 高倉美保

町の医療機関と情報共有しながら、 住民の生活を支援し、健康を守っていききたい

平成 28 年度の熊本地震では、県内外よりたくさんのご支援を頂いたこと、この場をお借りして深く感謝申し上げます。少しずつではありますが、町も復興へ向かって進んでいます。

今回、この「国保くまもと」への寄稿のお話を頂いたので、生活習慣病の重症化予防に向けて始めた、「生活習慣病予防連絡台帳」の運用についてご紹介します。

これは、本人の同意を頂いたうえで、町内医療機関と情報共有を目的として実施しています。具体的には、

- 【町→医療機関】特定健診の結果で受診勧奨を実施した際、本人が医療機関をスムーズに受診できるように、町から医療機関へ予め情報提供する
- 【医療機関→町】定期受診していても、コントロールが悪い方や、定期受診ができていない方など生活状況の把握が必要な方について情報を頂き、町の保健師・栄養士が訪問する

等のやりとりを、電話で実施しています。

この連絡台帳を始めたきっかけが、保健指導の中で出会う「生活習慣病のコントロールが悪い方」でした。町の保健師・栄養士の関わりだけでは解決が難しく、医療機関にも相談したいという思いを抱いていましたが、誰に、どう連絡を取っていいかわからない状況がありました。そこで、町内医療機関との意見交換を実施する機会を設けたところ、医療機関側も同じ思いを持っていたことを知り、「生活習慣病連絡台帳」というツールを使って、やりとりを始めることになりました。

町・医療機関双方の窓口担当者を決めたことで、「顔の見える関係」が構築でき、お互いのやりとりがしやすくなってきたように思います。まだまだ始めたばかりで課題もありますが、このツールが住民の生活を支援し、健康を守ることに繋がっていけば、と思っています。

私に関わっている方で、一度医療機関受診へつながったのに治療を中断してしまっている方がいます。血糖値が高く、このままでは血管がボロボロになっていくことは分かっているのに、どうしたらいいのか。私にできることは何だろう…と考えながら、またパソコンに向かう時間が増えてしまっている今日この頃です。重い腰をあげて、健診結果で訪問した方のもとへ、再度出向くことから始めていききたいと思います。



保健福祉センターの保健師（筆者は右から3人目）

次号執筆者は御船町の日高梨沙保健師です。